

が200人もいる。従って退会者の数をおさえることはそのまま増強につながってくる。その為には魅力あるクラブ作りをすることである。皆んなで知恵を出し合っていきましょう。

職業奉仕委員会

梨 本 清 一

職業奉仕と四つのテストについて話し合おう、というリーダーの方針で進められました。参加者の中から話題二つが提供されました。

そのⅠ。群馬側の家具屋さんが、私も同様な状況下に置かれている、として「ロータリーの友・9月号・友愛の広場・投書欄・大きな矛盾」をとりあげました。ある電気屋さんの切実な訴えで、自分の店の真向いに大手電気店の出店計画があり、そうなれば私の店はひとたまりもありません。先方の社長はロータリアン、私は二度直接社長に会い善処方をお願いしたのですがまったく無視され計画通り開店の運び。ロータリーの目指す職業奉仕、四つのテストとまったく矛盾しているではないか、正しいものが報われないわびしい時代なのか、ロータリーとは一体何なのか、ロータリーの友情とは何なのか、……という訴えでした。

そのⅡ。これも群馬側のお医者さん2人からの発言。今日の大会に出席すべくタクシーが迎えに来たところに急患が3人来た。生命に別状がないと判断したのでお帰りを願いいこの大会に出掛けて来たが、こういった場合、どちらを優先すべきか？ロータリーの職業奉仕とは何なのか？四つのテストをどう解釈すべきか？……というものでした。

みなさん、あなたはこの二つの話題をどうとらえ、なんと答えますか？

私はずっと無言でいたのですが、ついに我慢が出来なくなって発言を致しました。恐らく生意気なヤツと思われたでしょうが、自分の考えをきちんと発表し、ロータリアンには様々な考え方の人が居るのだとわかっていただくのがよりロータリアンらしいと判断したからです。

二つの話題とも共通点が発見出来ます。それはロータリーに対する「甘え」です。それが奉仕の理想を持ち出すことによって。四つのテストを持ち出すことによって。ロータリアンの友情を持ち出すことによって。そして時にはロータリーに対して自らの職業を持ち出すことによって。

高邁なるロータリーの理想は、ロータリーの精神であり、哲学であると解釈します。恐らく永遠に到達出来ないターゲットかもしれません。しかし私どもは、少しでも「こころ」に近づくべくロータリーに接し、切磋琢磨しているのです。即ち、ロータリーの理想（具体的には四つのテスト）は、一人ひとりの心の中に在るのです。けっしてむやみに振りまわしたり、ましてや他者に押し付けたりするのではないと思うのです。

話題Ⅰに於て、苦しんでいる友に手をさしのべ、勇気づけてやることは人間として当り前のことであって、これは次元の違う問題であります。話題Ⅱの優先順位も、これも自らの問題であって場違いさを感じました。職業人としてのロータリアンは、どちらも自分自身であります。いま置かれたいまの自分に最善を尽すこと、これが「ロータリーに生きる一幸せ」だと私は思うのです。

最後に、わがクラブの例会における会員卓話の内容と職業奉仕との関連についても少々意見発表して参りました。

社会奉仕委員会

羽 賀 一 夫

分科会ではインターアクト及びローターアクトについての話が多く出ました。どちらも会員数が少ないと活動がにぶくなり、逆に30名以上になると集る事自体が楽しく内容も充実し、各自が工夫する様になって行くと言う事です。我々ロータリアンとしては、人数を確保し、アクトに対していつも関心を持っている事が、若い人の行動を引き起させると言う事です。

高崎のローターアクトでは、四十名近い会員が居り、活発すぎておさえなければならないそうですし、来年にはオーストラリアへの研修旅行が行われ、半額近い補助金が出るそうです。人数確保の方法としてインターアクトを増し、インターアクトの卒業生はローターアクトに入ってもらい、ローターアクトの卒業生を青年会議所へ、その卒業生をロータリーへのコースも良いアイデアではないかとの話も出ました。

高齢者問題については、日本の平均寿命が伸び高齢化社会になりますが、生きがいのある生活をする事が一番大切で、高田RCの委員長さんは75歳だそうです、自分が元気なのはロータリーが生きがいで、自ら行動を起す事によって張りのある日々を送っているのが大変幸せだと語っておられ、我々には大いに参考になった意見を聞いて、分科会を終りました。

青少年委員会

本 間 建 雄 美

青少年活動では「インターアクトの増強とライラの認識を」と言うテーマで行なわれました。

始めにインターアクトの近況を敬和学園高校韓国への研修旅行、又インターアクトクラブのアンケートによる奉仕の実態報告がありました。その中で青少年の立場から①学校の部活に拘束されない②多くの人々と友達になれる③海外研修が出来る等々参考にして新インターアクトクラブの増員を目標にして活動してもらいたい。

次にライラの認識について、ライラは優秀な若者の指導、育成を目的とした重要な活動で有る故に、ライラの内容について予備知識を与え気軽な気持ちで参加して載きたい。まずはライラの不参加クラブを無くす事で有る。青少年問題については、特効薬的なものは無いが小さな事、又種々な事を行う事こそ少しなりとも問題解消に通ずるのではないか。ライラを通して若者に溶け込み、同じテーマの基で話し合う事、これも青少年問題の相乗効果が出て来ると思います。クラブ内の関連委員会の協力を得ながら奉仕活動を致します。